

平成29年度 事業報告書

【法人本部】

平成29年度は、改正社会福祉法に対応した新たな評議員会および理事会の運営と、「地域における公益的な取組」の推進を目的とした「いちごハートネット事業」への参加をスケジュール通りに進めることができた。また、本部職員の増員により経理・会計・労務の業務にそれぞれの担当者を配置し、効率性と正確性の向上が図れた。

反省点は、最重要課題と位置付けている人員不足・離職率改善について、年間採用者数19名に対して年間離職者数26名、年間離職率が高齢者福祉部門23.38%障害者福祉部門10.81%法人全体として17.22%と前年度から改善ができなかった。前年度に導入した就職情報サイト「マイナビ」との契約、勤怠管理システム及び永年勤続表彰・年間皆勤賞などの表彰制度等のほか、法人の求人サイトの立ち上げや職員紹介採用制度にも取り組み始めたが、来年度も引き続き重要課題として専任担当者による計画的な展開をしていかななくてはならないと考える。同様に経費削減に関しても、一部の事業費・事務費に改善がみられているが、全体的な改善にまでは至っていない。

結果として平成29年度も、対症療法的な法人経営・施設運営の体質改善を図ることができなかった。

次年度は、人員を確保し計画的な業務遂行と効率性・正確性の更なる向上を図って、経営組織の中核としての法人本部機能強化に取り組む。

【高齢者福祉部門】

平成29年度は人員不足・離職率改善と収支の改善という二つの重要課題について、現状継続の対応だけで有効な対策が取れず仕舞だった。

介護・支援の業務に関しては様々な取り組みの成果として改善傾向がみられることを考えると、事業運営に必須の経営資源であるヒト・モノ・カネの確保は早急に対策を講じなくてはならず、そのためには部署・部門を横断して具体策を検討し実行する必要がある。

ケアハウス シャトーおおるり

重点課題の一つである居室稼働率の向上は、新規入居者が8名、退去者は7名、稼働率72.5%とほぼ前年並みの結果で、危機感を持って行政機関や地域包括支援センターなどへの情報提供、挨拶廻りに取り組む必要がある。

もう一つの重点課題である入居者満足度の向上については、選択メニュー・お弁当の日などによる食生活の充実や、カフェ、ドライブなど行事・企画の充実が図れたことで改善がみられてきている。

来年度は今後の施設運営を考え、高齢化等による介護の重度化や、現在の入居者の2

割を占め今後も増加が続くと予想される生活保護受給者・虐待被害者等の困難事例に適切に対応するため、職員のレベルアップに取り組まなくてはならない。

ケアプランおおり

シャトーおoirりの入居者を中心とした事業展開を進めているが、積極的な研修等への参加等で地域包括支援センター等との連携を強めたことで外部利用者も現在約 4 割弱と増加傾向にある。

今後も現在の方針を継続することで、繰り入れを必要としない自立した運営を目指して業務に取り組まなくてはならない。

おoirりの森

29 年度は職員一人一人が自分自身の役割を考えることを中心に様々な活動を進めてまいりました。特に認知症ケアにおきましては、「パーソンセンタードケア（本人を中心・主役に考える）」を意識し「ひもときシート」の活用やケアカンファレンスを重ね、周辺症状の緩和や食事量の増加につなげることができました。こうした成果を得ることでご家族からの信頼や職員のやりがい、自信へと結びつき自分自身の役割は何かをあらためて認識できたのではないかと考えます。

また、「ヒヤリハット強化月間」を定期的に設け、気づきを高めることに意識した結果、重大事故の発生が大幅に減少できました。転倒による骨折事故は 3 件発生しましたが、入院加療には至らずいずれも経過観察にて回復されております。介護職員の腰痛予防対策としまして、一番の原因となる「抱える介助」を減らすため、スライディングボードの活用を標準ケアと義務付けて実施しており今後も継続していきたいと思います。

苦情がショートステイご利用者より 1 件、点眼時の手技について看護師の助言が不満であるにご本人よりあがりましたが、生活相談員よりあらためて丁寧な説明を行い、早期に納得され解決することができました。

【障害者福祉部門】

中長期事業計画の実行に向けて、障害各部門において様々な検討を着実に進めた一年であると考え、事業としての具体的な動き出しは 30 年度に持ち越された。

重点項目として掲げた「地域との新たなネットワーク作り」については、子ども食堂へのパンの提供や、様々な困難さを抱えた家庭の親子を招待してのパンづくり体験教室等を進め、社会福祉法人の地域貢献の取り組みにも繋げられたと考える。

障害者支援施設ひばり

宇都宮市内の障害者支援施設で起きた虐待事件を受け、虐待防止の取り組みの強化を求められる中、外部講師を招いての虐待防止研修を開催するなど、職員が具体的に虐待

の問題を考える取り組みを進めた。30年度も継続していく。

前年度より活発化させているアート活動により生み出された作品を、ポスター等に二次利用した商品開発や、外部の企画展への出展など、外部発信の取り組みを一步進めたところである。今後のさらなる発信に繋げていく。

就労継続支援（B）型事業所 ひばり

パン工房の売り上げが前年度比 140 パーセントと、大幅に伸びている。地域のリンゴ農家、イチゴ農家との連携による新しい商品も好評を得ており、今後のさらなる事業の活性化が期待される。

新しく動き出した、木工作業も軌道に乗り、下請け作業による工賃収入が伸びてきている。今後はオリジナル商品の開発を進めていく。

平均工賃も全国平均、月 15,500 円程度の中、20,500 円を達成できている。平均支援区分が 4.5 と、就 B 事業所としては重度の障害者が多いことを考え合わせると、社会的意義のある実績を残せていると考える。

グループホーム つぐみ

サービスの均一化を重点項目として進める中で、ICT の導入を検討し、スタートさせた。確実な情報共有や、記録業務の簡略化などに今後繋げていく。

もう一つの重点項目である「お一人お一人のご要望に応える」ために、じっくりと話しを聞き、付き合う支援に取り組んだ。これまで叶えられなかったご要望に応じていくことも進め、「幸せ」を実感していただくことの支援に一步近づけたと考える。

また 29 年度は、様々な利用者様の難しい疾患に直面したが、通院援助等、出来る限りのサポートを進めた。今後も体制を整え、医療機関との連携を継続させていく。

サポートセンターひばり

契約利用者数の増加に伴い、29年度は相談支援専門員を増員した。訪問時間を増やすなど、業務内容の向上に繋がられたと考える。さらなる事業の充実化を図り、特定相談支援事業所の指定取得も視野に入れていきたい。